

筑城「今年は波に乗れず、みたいなところが多かったかな。大事なところと落ちちゃったり。大臣杯は良かったけど、リーグ戦は大事なところとして、波に乗り切れなかった。」

「今年でレギュラー2年目ですが、1年目より成長したと思う面はありますか？」

筑城「自分でよくわかかんない。客観的な評価とかは耳に入ってきてますか？」

廣井「監督に誉められてたじやん！常に全力でやってるから余裕がある、みたいな。」

筑城「それは監督がお世辞で言ってくれたんだよ(笑)。」

「C Bが入り替わることで連携のズレはありますか？特にS BはC Bからの指示が重要なウエイトを占めるので。」

廣井「全く問題ないですよ。筑城「コミュニケーションとかも全然問題ないです。」

「それは普段の生活でも？」

筑城「仲がいいし、やりやすいですね。」

「1年間ほぼフル出場の筑城選手、コンディション維持とか大変だと思うんですけど、何か特別にやっていたことはありますか？」

筑城「ストレッチは欠かさずやって、練習終わった後はランニングを。」

廣井「してねーじゃん(笑)！試合終わったらすぐ実家帰る(笑)。」

筑城「まあそれが一番リラックスできる(笑)。まあ僕の場合は、除去とか疲れを取るといふより、リフレッシュ。新鮮な気持ちにすること。そこですかね。」

「廣井選手もなにかありますか？」

廣井「俺は…いや、ないっす。すぐ家帰る(笑)。」

「カードも辞さない、闘志を前面に押し出す自身のプレーについてはいかがですか？」



明大戦をワーストゲームにあげた筑城。この試合は効率のよいプレスも見られずいつもの駒大には程遠い試合となった

「地味ですけどチームに貢献できればいいかなと。」

「もつとここを伸ばしたいとかはありますか？」

筑城「全部。まだまだです。」

平山相太にも食ってかかるから！

「それではお互いの良いところを教えてください。」

筑城「廣井は1対1の高さ！廣井「筑城は、相手スローイン時の、身体を入れてのダイビングヘッド(笑)。」

筑城「お前もやるじゃん！廣井「回数がかかる(笑)。平山相太にも食ってかかるから(笑)。」

「逆に悪いところは？」

筑城「人の意見に便乗するとこ(笑)。乗るんすよ。」

廣井「バカ！いいことじゃねーかよ！」

筑城「すぐ便乗するんだから、本当に(笑)。」



筑城「お前もじゃん(笑)！でも一番すごいのは巻佑樹だよ！合宿の時、寝る前に俺らの部屋に(小林)亮さんが来た時の夜に、寝たと思ったら、深夜、筑城がいきなり「亮さんまた？」って(笑)。」

筑城「北海道の最終日だよ。一緒の部屋だったんだよ。」

廣井「すぐ寝言言うんですよ、こいつ。」

筑城「寝ぐせも結構悪い…。」

「先程も出てきたコミュニケーションという面で、プライベートでも仲が良いんですか？」

筑城「足元ないとかね(笑)。」

廣井「まあ基本的に潰し合っただよ(笑)。」

廣井「合宿は同じ部屋だったんですよけど、俺、寮じゃないんで…まあ俺達、上辺だけの付き合いだから。サッカーと学校だけの付き合いで、グラウンド離れたらすぐこいつ家帰るんで。」

筑城「でもメールとかするよな(笑)。」

廣井「天皇杯の実況中継とか(笑)。でもみんな仲いいっすね。」

「俺らだけじゃなくて、4年生とかも仲いいし、1年も仲いいし。あんま上下関係ないよな。」

「でも2年が一番仲いいように見えますか？」

廣井「ああ、俺ら(原、巻を含めた)4人すよな。」

筑城「仲いいっていうか、ただっるんで(笑)。」

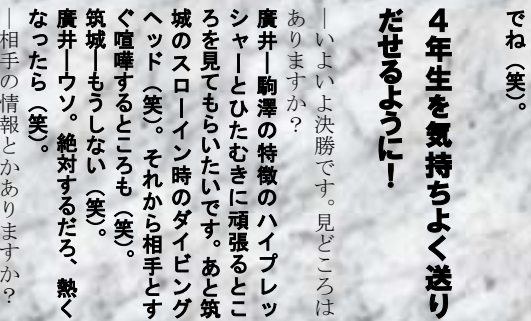
廣井「しかも止まなくなるとかな。止まらんくなって…。」

筑城「で、怒られちゃう(笑)。」

廣井「すぐ怒られるよ(笑)。」

「そういう面ではすごい性格が合ってるのでは？」

廣井「まあ基本的に潰し合っただよ(笑)。」



筑城「1対1の高さ！廣井「筑城は、相手スローイン時の、身体を入れてのダイビングヘッド(笑)。」

筑城「お前もやるじゃん！廣井「回数がかかる(笑)。平山相太にも食ってかかるから(笑)。」

「逆に悪いところは？」

筑城「人の意見に便乗するとこ(笑)。乗るんすよ。」

廣井「バカ！いいことじゃねーかよ！」

筑城「すぐ便乗するんだから、本当に(笑)。」

「相手の情報とかがありますか？」

廣井「そこ突かれると痛いんだよな(笑)。」

すこい気持ちよかった！

「今季のベストゲームとワーストゲームを教えてください。」

筑城「俺としては、ワーストゲームは(関カレ準決勝の)明大戦。」

「(※現在2部リーグに所属する明治大に0-3と完敗)廣井「間違いない。くそだったね。」

筑城「ホントひどかったよな。あれで気持ち入れ替えて坊主にしたんだから。」

廣井「あ、そうだ。お前ペットボトル投げられてたよな。」

「廣井さんも同じですか？」

廣井「俺も明大ですね。ひどいな、あれは。」

「ではベストゲームは？」

廣井「やっぱりこの間の筑波戦かな。」

筑城「試合終わった後にすこい気持ちよかったよな。応援とか、廣井「充実感あった。応援とか、いろいろな人と一緒に戦って勝ったみたいな感じで。」

「お客さんもいっぱい入ってましたしね。(この日の入場者数は2000人だった)廣井「まあ平山相太君のおかげでね(笑)。」

4年生を気持ちよく送りだせるように！

「いよいよ決勝です。見どころはありますか？」

廣井「駒澤の特徴のハイプレスシャーとひたむきに頑張るところを見てもいいです。あと筑城のスローイン時のダイビングヘッド(笑)。それから相手とすぐ喧嘩するところも(笑)。」

廣井「11番(石田)と14番(関)がキーマンって聞いてます。でも自分たちのことをやるだけです。」

「結構足元がうまいって聞きますか？」

筑城「でも俺は足元うまい方がいいですね、スピードあるより。(ボールを)コネてくれた方がつりいきやすい。」

「それでは抱負を聞かせてください。」

廣井「個人的には試合に出ることですね。でも4年生最後の試合なんです。もし出れなかったとしても、いい準備して、チームが一つになって勝てたら最高ですよな。」

筑城「昨年の悔しさもあるし、今年の4年生には2年間、お世話になったし仲良くしてくれたいし、やっぱりできる限りのことを頑張っつて。まだ、出れるかどうかはわからないですけど、出たら優勝できるように、4年生を気持ちよく送りだせるように、全力でやりたいです。」

「最後にFORZAの読者にメッセージをお願いします。」

廣井「まあ今回に限っては誰も見ないと思うんで(笑)。」

筑城「俺とか「筑城」ってどう読むんだって感じだよな(笑)。」

廣井「ちくしろ！」

筑城「「つゆき」って絶対読めないから、マジ！ともに読まれたことねーもん。」

廣井「ぜひ応援に来てください。絶対勝ちます！」

筑城「感動させるような試合をするので、見に来てください。」

普段は黒子役に徹し、駒大の守備陣には欠かせない筑城と廣井。二人のプレーは地味といわれ、玄人うけするようなのだが、インカレを制するためには二人の活躍は必須である。来季以降からの駒大の核を担う両選手からは今後目が話せないだろう。

■インタビュー・遠藤雅行、川崎篤彦、野澤俊介

写真・野澤俊介